

2020年度【前学期修了時アンケート】実施結果

2021年1月20日 教育開発センター

【回答期間】 2020年9月7日（月）～28日（月）（インターネット回答）

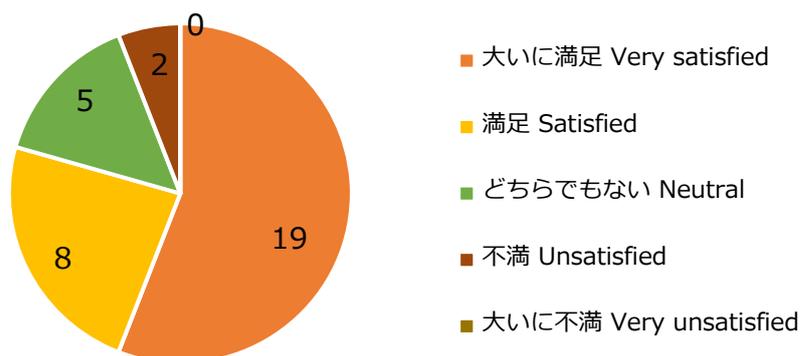
【対象者数】 2020年度前学期修了生 38名

【回答者数】 34名 回答率 89% （以下、内訳）

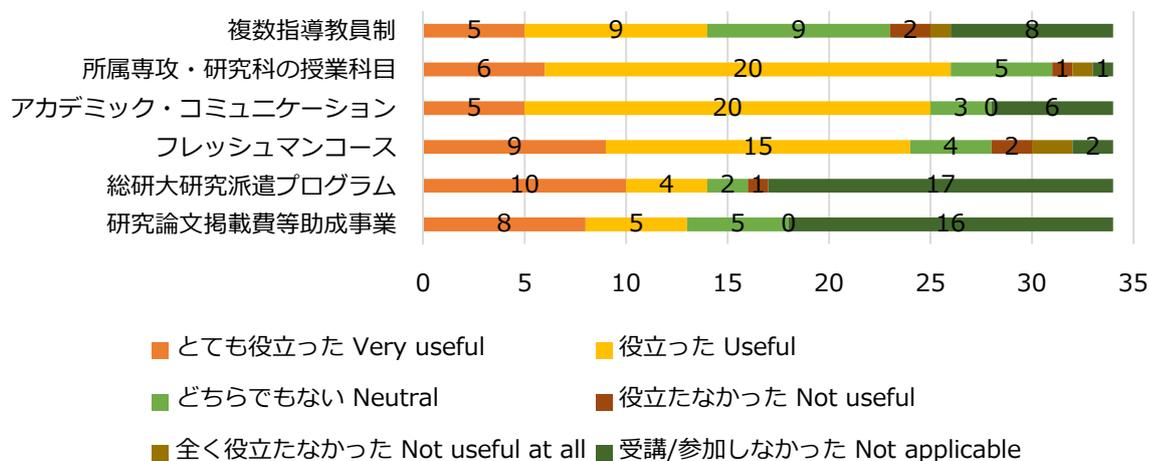
課程	5年一貫博士課程：9名		3年次編入：25名	
入学年度	2014年度以前：6名	2015年度：5名	2016年度：3名	2017年度：20名
在学時の状況	留学生：18名		社会人学生：9名	
	留学生でも社会人学生でもない：7名			
研究科	文化科学：2名		物理科学：9名	
	複合科学：14名		生命科学：5名	
			高エネルギー加速器科学：3名	
			先導科学：1名	

総研大の学修・研究の状況について

1. 指導教員の研究指導に満足しましたか。



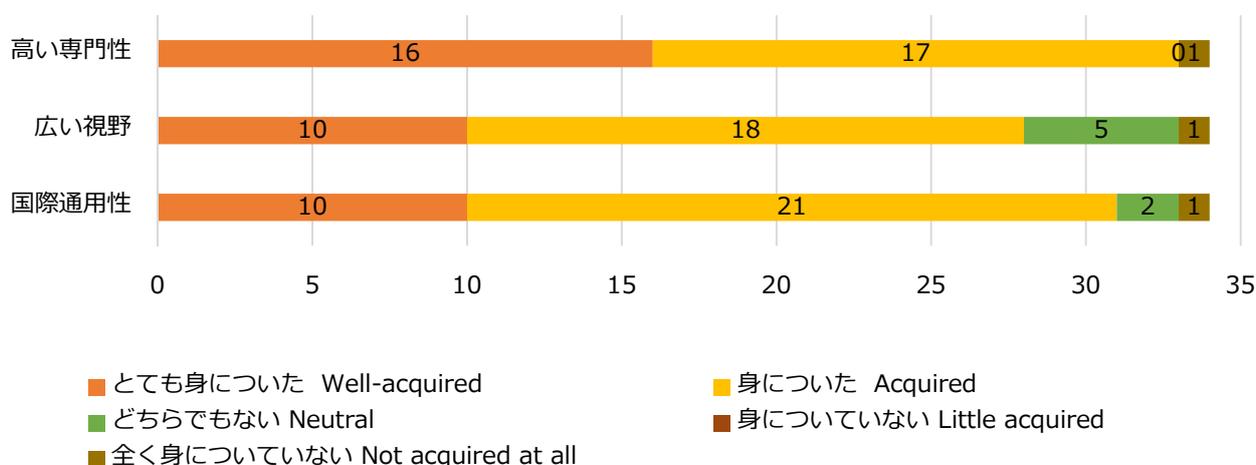
2. 教育プログラム・体制・リソース等について、あてはまるものを選んでください。



用語解説：

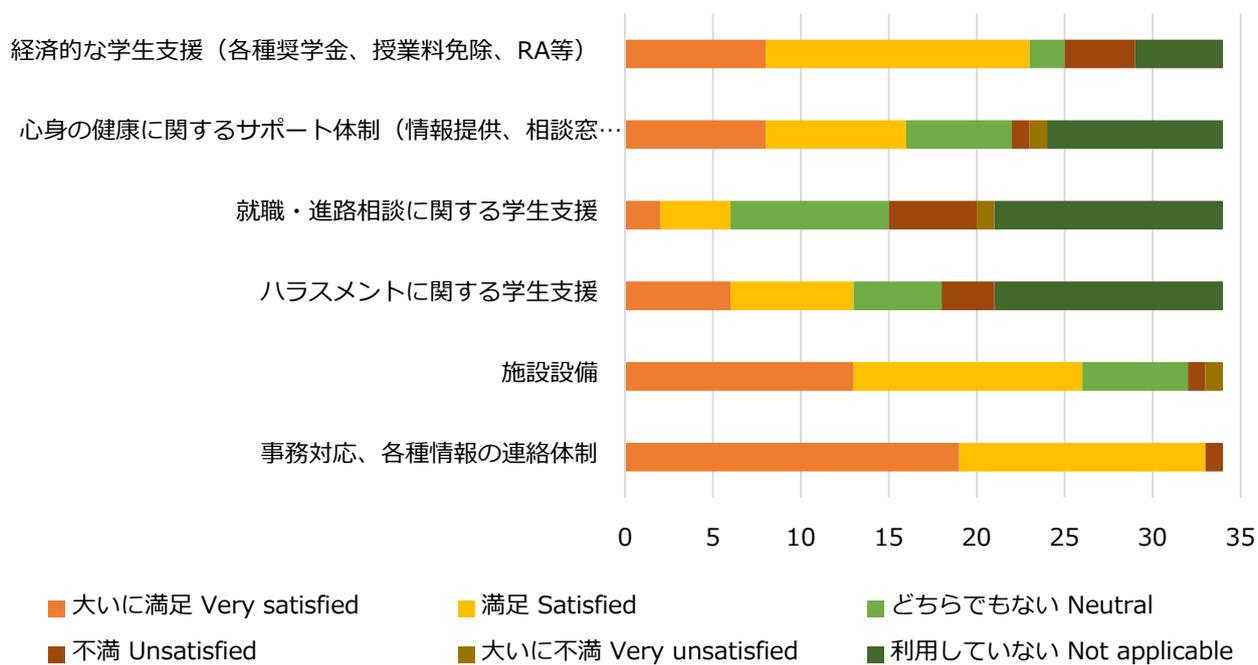
- 複数教員指導制：1人の学生に2人以上の指導教員が付く、マンツーマン研究指導体制です。
- アカデミックコミュニケーション（プレゼンテーションやライティング教育）：研究者を目指す総研大院生が、アカデミックプレゼンテーションおよびライティング等の力を効率的に伸ばすための基本的な方法論を、講義や演習を通して学ぶ教育プログラムです。各専攻で分野の特性に応じたプログラムを展開しており、多くの専攻では英語での研究発表や質疑応答、議論などのコミュニケーションの方法を演習を通じて学んでいます。効果として、論理的に聞き、話す能力を身につけ、論理的に学術論文を書くための能力を身につけることが出来ます。
- フレッシュマンコース：主に新入生を対象とした合宿型の集中講義です。このコースでは、次の2つのことを主な目的とします。第一に、研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶこと。第二に、総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築くことです。このコースは、「アカデミック探訪」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の3つのセクションで構成されます。
- 総研大研究派遣プログラム（H29までの海外学生派遣事業・インターンシップ事業）：本プログラムは、海外での短期の研究活動や、将来のキャリア構築につながる国内外での長期の共同研究等に主体的に取り組む本学学生に対して必要な経費を支援することを目的としています。
- 研究論文掲載費等助成事業：本事業は、本学の学生に対し、国内外で刊行される学術誌等への投稿・掲載に係る費用の全額又は一部を支援することにより、本学の学生が行う博士論文研究を促進・奨励し、当該研究成果を広く国内外に発信することを目的に実施しています。

3. 総研大が教育の目標として掲げている次の項目について、あなたはどの程度身についたと思いますか。



学生生活について

4. 総研大による学生支援等について、あてはまるものを選んでください。



2020年度【後学期修了時アンケート】実施結果

2023年3月28日 教育開発センター

【回答期間】 2021年3月18日（木）～4月5日（月）（インターネット回答）

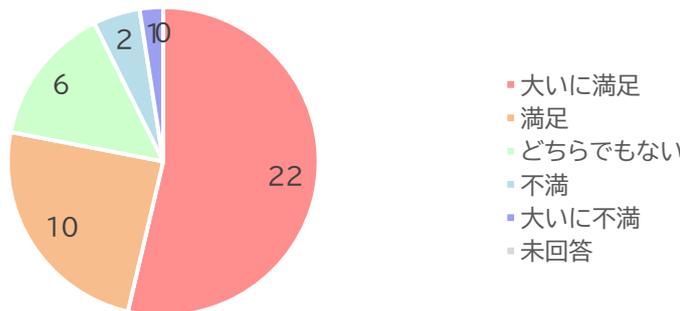
【対象者数】 2020年度後学期修了生 57名

【回答者数】 41名 回答率 72% （以下、内訳）

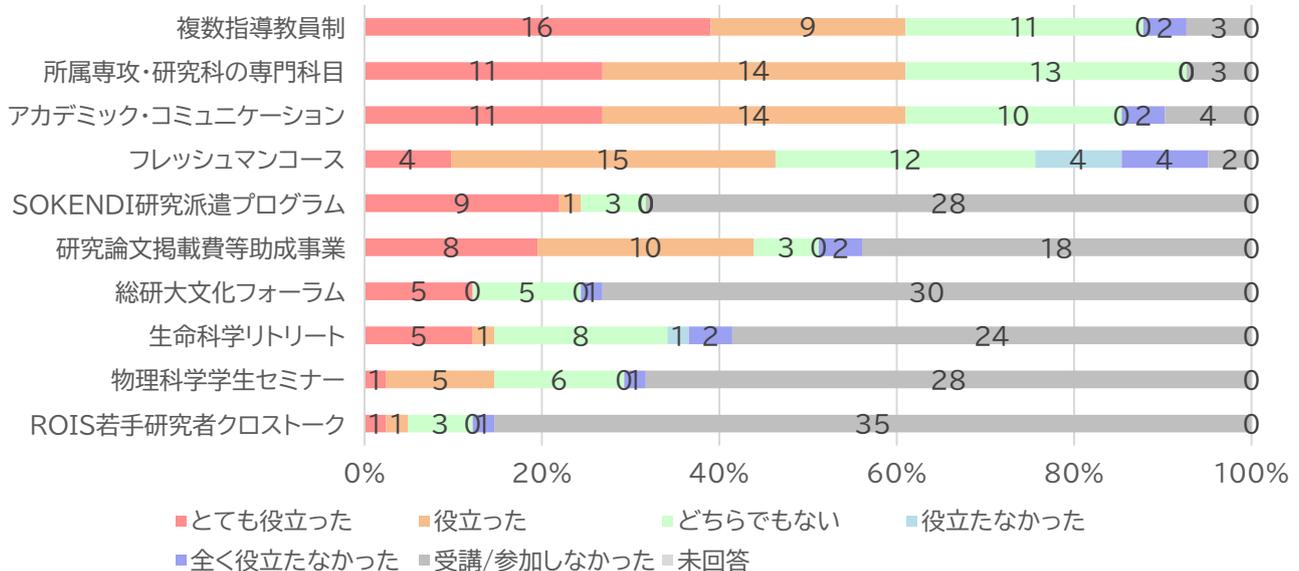
課程	5年一貫博士課程：25名		3年次編入：16名
在学時の状況	留学生：3名	社会人学生：6名	留学生でも社会人学生でもない：32名
研究科	文化科学：5名	物理科学：12名	高エネルギー加速器科学：4名
	複合科学：7名	生命科学：10名	先導科学：3名

総研大の学修・研究の状況について

1. 指導教員の研究指導に満足しましたか。



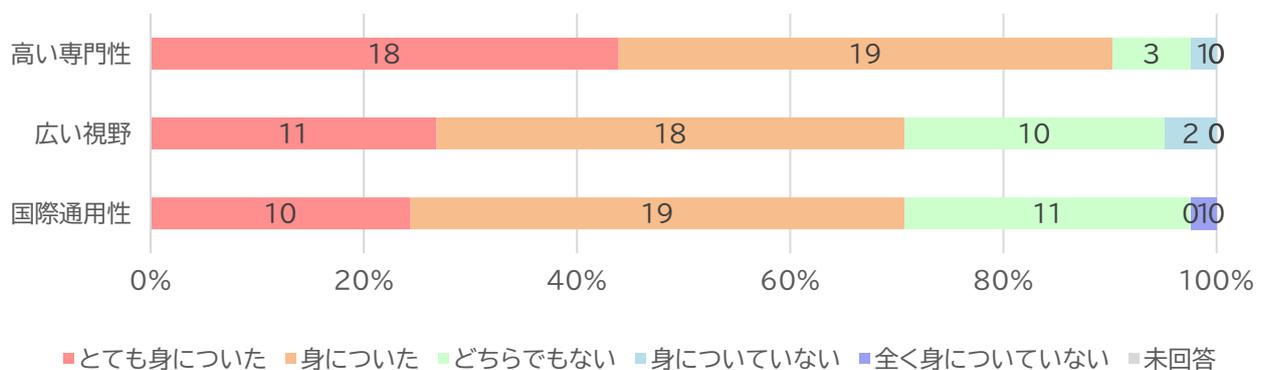
2. 教育プログラム・体制・リソース等について、あてはまるものを選んでください。



【用語解説】

- ・ **複数教員指導制**：1人の学生に2人以上の指導教員が付く、マンツーマン研究指導体制です。
- ・ **アカデミックコミュニケーション（プレゼンテーションやライティング教育）**：研究者を目指す総研大院生が、アカデミックプレゼンテーションおよびライティング等の力を効率的に伸ばすための基本的な方法論を、講義や演習を通して学ぶ教育プログラムです。各専攻で分野の特性に応じたプログラムを展開しており、多くの専攻では英語での研究発表や質疑応答、議論などのコミュニケーションの方法を演習を通じて学んでいます。
- ・ **フレッシュマンコース**：主に新入生を対象とした合宿型の集中講義です。主な目的は2つあり、第一に、研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶこと。第二に、総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築くことです。「アカデミア探訪」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の3セクションで構成されています。
- ・ **総研大研究派遣プログラム（H29までの海外学生派遣事業・インターンシップ事業）**：本プログラムは、海外での短期の研究活動や、将来のキャリア構築につながる国内外での長期の共同研究等に主体的に取り組む本学学生に対して必要な経費を支援することを目的としています。
- ・ **研究論文掲載費等助成事業（過去に実施していたプログラム）**：本事業は、本学の学生に対し、国内外で刊行される学術誌等への投稿・掲載に係る費用の全額又は一部を支援することにより、本学の学生が行う博士論文研究を促進・奨励し、当該研究成果を広く国内外に発信することを目的に実施しています。
- ・ **総研大文化フォーラム（過去に実施していたプログラム）**：基盤機関を会場に、文化学研究を切り口とし、研究科内外の様々な専門分野の教員・学生が研究発表等を行う学際的な交流プログラムです。
- ・ **生命科学リトリート**：生命科学研究という共通基盤を持ちながら専門分野が異なる複数のコース（遺伝学、基礎生物学、生理科学、統合進化科学、および関連分野）の学生・教員が学術交流を行う合宿形式の授業科目です。
- ・ **物理化学学生セミナー（過去に実施していたプログラム）**：物理科学研究科および高エネルギー加速器科学研究科が、物理科学コース別教育の一環として分野横断的に学ぶ合宿形式のセミナー（2年に一度の開催）です。学生中心の企画・運営によって、8専攻の学生と教員が交流します。
- ・ **ROIS若手研究者クロストーク（過去に実施していたプログラム）**：機構における融合研究への取り組みの一環として、異なる分野に属する学生や研究員、若手教員が集まり、普段とは異なる視点から分野を超えた議論を行うことによって、自分自身の研究分野を見つめ直すとともに新たな融合研究の萌芽を目的としたクロストークです。

3. 総研大が教育の目標として掲げている次の項目について、あなたはどの程度身についたと思いますか。



学生生活について

4. 総研大による学生支援等について、あてはまるものを選んでください。

